CASE STUDY

成果や課題を可視化し情報公開 高校との信頼関係構築へ

星槎道都大学

経営危機を乗り越え星槎道都大学がたどり着いたのは、学生の成長率第一の教育目標。質保証を通じて変化する学生と自学の姿を社会に公開し、信頼獲得につなげる考えだ。

常務理事 事務局長
酒井 純一
さかいじゅんいち●1983年入職。図書課長補佐、教務課長、教務部長を経て、2013年より現職。

学生成長率No.1を掲げ経営の立て直しを図る

1978年に道都大学として紋別市に開学した本学は、2005年までに全学部を北広島市に移転。定員未充足が続く中、教育系事業体の星槎グループに参画、2017年に現校名に改称しました。

経営状況の悪化による危機感は、教職員の視点を自然と学生へと向けさせ、「学生成長率No.1の大学」を目標に掲げるに至りました。学生の成長を約束するとは、学位を授与する人材の質、それを支える教育の質を保証すること、つまり、内部質保証そのものです。

どちらにしろ取り組まなければならないのなら、高校や受験生から評価を得て学生募集につながる取り組みにしようと、自ら旗振り役となって全教職員に呼びかけました。

既存の取り組みを再構築 実態ある内部質保証へ

学生の成長率No.1を標榜するには彼らの成長の可視化が欠かせません。それにはしっかりと機能するしくみづくりが肝心です。3つのポイントに留意しました。

1つ目は、実態に沿うシステムづくりです。長年、教務畑にいた私は、自己点検、GPAなど、文科省から（努力）義務とされてきたさまざまな取り組みの集大成が内部質保証だと考えます。よって積み上げてきた施策を再構築し、全学、各組織、教員、学生の4層のPDCAを形づくりました。まず、既設の教学マネジメント会議と自己点検・評価運営委員会を軸に「全学レベル」のPDCAを構築。学科・センター等の「各組織レベル」では、教授会の下に置かれた専門委員会をまとめ役に、DPに基づき各科目が達成すべき教育成果の整理等を行いました。「教員レベル」では、学生による授業改善アンケートで一定の評価を下回った授業担当者に改善計画を求める一方、[*1]優秀教育賞受賞者による授業実践の講演を実施。学生FD委員から寄せられた意見はFDで発表、シラバスに反映します。

「学生レベル」の質保証のしくみは、本学がめざす学生の成長率向上のためには欠かせないものです。学修成果可視化システム「ポートフォリオ」により学生はDPの達成度や課題を確認しつつ、主体的な学びのサイクルを実践します。

2つ目は、教職員の日常的な議論をベースにした現場主義の質保証です。2014年の理事長・学長交代、星槎グループの職員の参画などを経て、現場が意見を言える風通しのよい組織に変わりました。課題は毎週の[*2]情報共有会議で話し合われ、学科や事務局にて検討し、みんなで解決します。

3つ目は、徹底的な情報公開です。入試状況、調査結果、経営状況などを包み隠さず教職員に公開して議論の前提を共有し、実効的な施策を立てやすくしています。社会に対しても中退率や学生のアンケート結果などを脚色なく積極的に公開。課題に正面から向き合い、いかにして人材、教育の質を高めようとしているのかを発信することが、高校や地域からの信頼獲得につながるはずです。

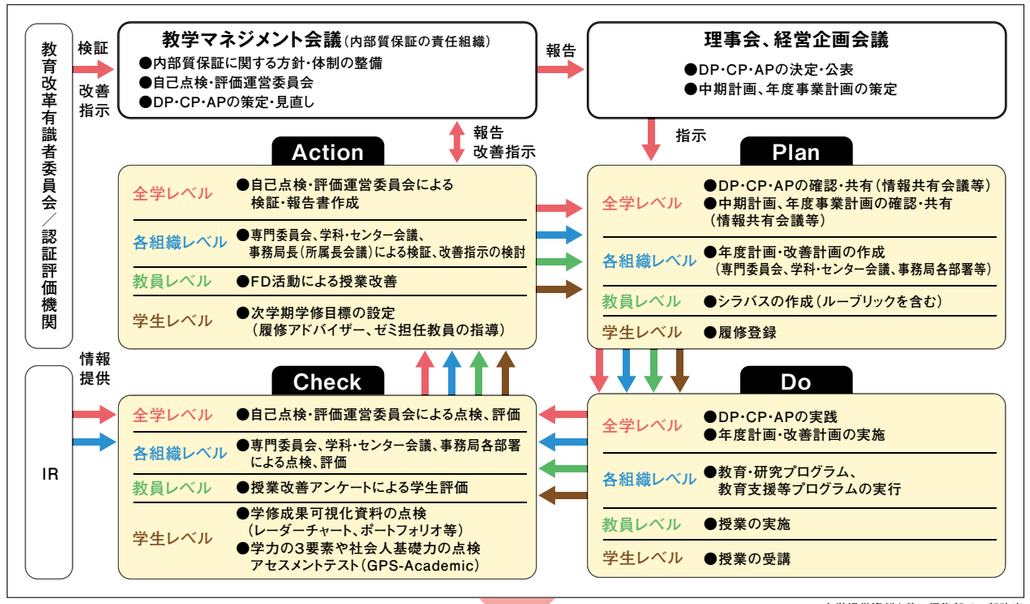
しくみは出来あがり、残る課題は「成果を出すこと」。まだ改善を要する点もありますが、学修成果、教育成果の向上を対外的に示せるよう、4層のPDCAを実践したいと思います。

*1 授業改善アンケート結果に基づき、優れた授業を行っている教員を表彰している
*2 理事長（＝学長）、副学長、学部長、学科長、事務局課長職以上の教職員等が参加。毎週月曜日開催

取材・文／児山雄介　撮影／熱田智寿佳

キャンパス／北海道北広島市　学生数／1,039人
学部／経営、社会福祉、美術
THE世界大学ランキング日本版2022／201+位

内部質保証の体制図



*大学提供資料を基に編集部で一部改変

課題と改善例
- ▶学外での学びがしやすいクオーター制のメリットを生かせていない→履修科目の精選などを検討中
- ▶学生の「ポートフォリオ」の活用→活用法の発信強化（動画）、教員面談での活用促進、アセスメント結果の追加等検討中
- ▶サポートが必要な学生への支援に関する課題→一人の教員だけで抱え込まない対応を検討中

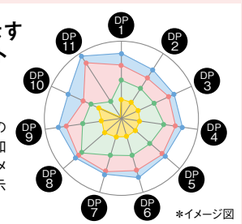
注目!

しくみ化して見えた実態や課題を「成長率No.1」の広報に活用

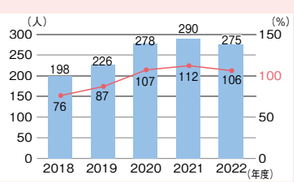
同大学では内部質保証を学生募集に積極的に生かしている。教育の質保証への取り組みをまとめたリーフレットを高校に配布したり、その高校出身者のDP達成度を提示したり。送り出した生徒のその後の成長が可視化されていることに、高校からは驚きの声が挙がっているという。「明らかになった課題への取り組みも公開して、成長率を高める過程を高校に知ってもらいたい」（酒井事務局長）。近年は学生募集も好転し、3年連続で入学定員は充足している。

また、内部質保証を通じ、これまで見えなかった教育の実態に気づいた。科目が多すぎて留学など学外での学びに時間が割けず、クオーター制のメリットが生かせていないカリキュラムの課題、サポートが必要な学生への支援に関する課題…。さっそく改善策を検討している。一方、学生FD委員会へのヒアリングでは、経営を学ぶ学生が知識を生かし、アルバイト先に収支管理の方法を提案したといったような学修成果例も明らかになっている。

DP達成度を示すレーダーチャート



ポートフォリオにはDPの達成度を表示。非認知能力を測る外部アセスメントの結果も併せて表示する検討も進む。

*イメージ図

入学者数と充足率の推移